

令和6年度「地域と学校の連携・協働体制構築事業」における目標及び実績値等について

課題の類型1	課題の類型2	背景・現状・課題の詳細	これまでの取組状況	左記課題の解決のために 令和6年度に実施する具体的な取組	本事業で達成する目標 (アウトカム)	目標の達成度を 測る指標	現状の 数値	単 位	本 年 度 の 目 標 値	本 年 度 の 実 績 値	アウトカムの達成度に関する評価・分析 (事業における成果、課題、改善点等)
①学校運営上の課題	01 教職員の時間外勤務の是正	時間外在校時間が月45時間を超える教職員の割合について、令和8年度の目標値は0%となっているものの、現状はR4:26.1%、R5:23.8%となっており、働き方改革の取組推進が課題となっている。	・校長会や教頭会、教職員対象の研修会でコミュニティ・スクールや地域学校協働活動に関する周知を行い、事業の活用や協力を促した。 ・36中学校区に統括的な地域学校協働活動推進員を配置し、中学校区の学校応援団活動の企画・立案やボランティア募集、広報活動、ネットワークづくりを行った。 ・小学校83校に地域学校協働活動推進員を配置し、放課後子ども教室の運営や学校応援団活動の企画・立案を行った。	・校長会や教頭会、教職員対象の研修会でコミュニティ・スクールや地域学校協働活動に関する周知を行い、事業の活用や協力を促す。 ・37中学校区に統括的な地域学校協働活動推進員を配置し、中学校区の学校応援団活動の企画・立案やボランティア募集、広報活動、ネットワークづくりを行う。勤務時間は年間480時間を基本とする。 ・小学校80校に地域学校協働活動推進員を配置し、放課後子ども教室の運営や学校応援団活動の企画・立案を行う。勤務時間は年間192時間を基本とする。	学校・家庭・地域の役割分担の明確化により、地域との協働が進み、教員の業務負担が軽減する。	月45時間以上の時間外勤務を行う教員の割合	24.9	%	25	26.2	・本事業内容について教職員に周知が不足しているため、研修会等で事業の内容や活動事例を紹介する。 ・消耗品費等の請求回数の上限設定を実施し、文書便への対応時間の削減につなげる。
②学校と地域の課題	03 学校支援ボランティアの確保・育成	令和6年度を目標に、統括的な地域学校協働活動推進員については中学校区37グループに、地域学校協働活動推進員については、全小学校81校(統廃合によりR5比2校減)に配置することを目標としているが、地域人材の不足等により、後継者を含む候補者の発掘に苦慮している。	“学校・地域 ひとつなぎ”コーディネーター養成講座を開催し、令和5年度までに165人が修了し、59名が推進員等の地域活動に参加している。 ・教職員研修の1つとして、学校・地域連携研修会を開催し、コミュニティ・スクールや地域学校協働の必要性の理解促進に取り組んだ。	・“学校・地域 ひとつなぎ”コーディネーター養成講座(定員30人)を開催し、人材の発掘・育成に取り組むとともに、修了後の活動例についても周知していく。 ・学校関係者対象の学校・地域連携研修会を開催し、コミュニティ・スクールや地域学校協働活動の必要性の理解促進に取り組む。	統括的な地域学校協働活動推進員及び地域学校協働活動推進員が配置され、全小中学校において、地域学校協働活動が実施される。	①統括的な地域学校協働活動推進員の配置人数 ②地域学校協働活動推進員の配置人数	①統括 36 ②推進員 84	人	①統括 37 ②推進員 84	①統括 37 ②推進員 84	・“学校・地域 ひとつなぎ”コーディネーター養成講座の修了生を統括や推進員の就任につなぐことができた。 ・後任の候補者発掘は課題が残ることから、引き続き事業の理解促進やコーディネーター養成講座を実施する。